

2023年3月期 決算補足説明資料

2023年5月18日

株式会社エーアイ

証券コード：4388

声を便利に、声を楽しく。



1. 企業概要
2. 2023年3月期 決算概要・配当方針
3. ESGへの取り組み
4. 2024年3月期 主な取り組み・業績予想・配当予想

【会社概要】

会社名	株式会社エーアイ（英文社名：AI, Inc.）
代表者	代表取締役社長 廣飯 伸一
設立	2003年4月1日
本社	東京都文京区西片一丁目15番15号 KDX春日ビル10階
資本金	151,481,320円（資本準備金 121,280,000円）
市場	東京証券取引所グロース（証券コード：4388）
主要株主	廣飯 伸一、吉田 大介、合同会社 吉田事務所
決算期	3月
従業員数	正社員：53名 パート及び嘱託社員：11名
事業内容	音声合成エンジン及び関連するソリューションの提供

（2023年3月末日現在）

【企業理念・行動指針】

企業理念

エーアイは音声技術で社会に新しい価値をつくり続けます

MISSION

声がつくれる“便利さ”と声をつくる“楽しさ”を

VISION

音声技術で社会の役に立つサービスをつくり続ける

VALUE

音声技術のトップランナーで居続ける

- 人が幸せになる技術・サービスを提供する
- お客様と社員と共に未来をつくっていく
- 日々、一步一步丁寧に歩いていく

行動指針

- 新しい技術、新しいスキルを、常に身につけていく人に。
- お客様も社員も自分も。仲間と一緒に自分を育てていく思いやりのある人に。
- 着実に行動して成長していく向上心のある人に。



【AITalk[®]とは】

音声合成エンジン「AITalk[®]5」は、従来の「コーパスベース音声合成方式」と、最新の深層学習技術を活用した「DNN音声合成方式」を、利用シーンに合わせて選択することで、さらなる人間らしさ・豊かな音声を追求した高品質音声合成エンジンです。



”有難う”

テキスト入力

テキスト解析

言語辞書に基づいた入力された日本語テキストを解析し、読み・アクセントなどを付与

韻律予測

韻律辞書に基づいて、テキスト解析結果に連した韻律パターン（強弱・抑揚）などを予測

素片選択

テキスト解析結果と韻律予測の結果をもとに適切な音素を選択（従来方式）または素片パラメタを予測（DNN方式）

波形生成

選択した音素片を韻律パターンに基づいて変形・接続（従来方式）素片パラメタと韻律パターンに基づいてボコーダにより波形を生成（DNN方式）



“arigatoo”

QiTalk



言語辞書

単語や品詞、アクセントや係り受けなどの言語情報

音声辞書

収録した音声より音声の特徴を学習。

声の高さや変化パターン・音素の継続長などの韻律情報を格納した韻律辞書と、音素の素片に分解してインデックスを付けた波形データを格納した音素片辞書を作成。

最新型言語辞書

従来型波形接続音声合成

音声辞書



従来型 韻律辞書



従来型 素片辞書

従来型波形生成

教材・動画ナレーション
ニュース読み上げ・館内放送

DNNパラメトリック音声合成

音声辞書



深層学習型
韻律辞書



深層学習型
音響パラメタ辞書

ボコーダー

音声対話・ガイダンス音声
防災行政無線・異常検知音声

【選ばれる理由】

①人間的でなめらか・人に近い自然な音声

AITalk®は、従来の機械的な合成音ではなく、人間の声に近い自然な音声合成です。

②総勢100名以上の話者・言語の種類は40種類以上の豊富な音声ラインナップ

音声の差替えや追加の度に発生していた収録の手間やコストの事を気にせず、必要な時に必要なだけ音声の差替えや追加ができます。

③誰の声でも短時間の収録で音声合成用データに変換

芸能人や声優、自分の声を収録し、音声合成用のオリジナル辞書を作成することができます。文字を入力するだけで、本人の声のようリアルな音声で喋らせることができ、WEBキャンペーンやスマートフォンアプリ、ゲーム等の様々なコンテンツでの展開が可能です。

【ビジネスモデル】

区分		販売形態		製品・サービス
法人向け	法人向け製品 (当期実績：売上の44.2%) (前期実績：売上の44.9%)	パッケージ販売	フロー型	<ul style="list-style-type: none"> • AITalk® 声の職人® • AITalk® 声プラス® • AITalk International®
		ライセンス提供	ストック型	<ul style="list-style-type: none"> • AITalk® SDK • AITalk® Server • AITalk® micro
		受託開発	フロー型	<ul style="list-style-type: none"> • AITalk® Custom Voice® • 音声ファイル作成サービス
		その他	ストック型 フロー型	<ul style="list-style-type: none"> • VOITER (AIライティングレコーダー)
	法人向けサービス (当期実績：売上の30.0%) (前期実績：売上の26.8%)	クラウドサービス	ストック型	<ul style="list-style-type: none"> • AITalk® WebAPI • AITalk® Web読み職人® • AITalk® 声の職人® クラウド版 • A.I.VOICE Biz®
		サポートサービス	ストック型	<ul style="list-style-type: none"> • 技術サポート
コンシューマー向け製品 (当期実績：売上の25.8%) (前期実績：売上の28.3%)		パッケージ販売	フロー型	<ul style="list-style-type: none"> • かんたん！AITalk® • かんたん！アフレコ™ • AITalk® あなたの声® • VOICEROID®シリーズ • A.I.VOICE® シリーズ

【利用されている用途 (AITalk)】



音声対話



防災行政無線・全国瞬時警報システム (J-ALERT)



道路交通情報



ナビゲーション・PND



スマートフォンアプリケーション



観光案内・館内・車内各種放送



電話自動応答システム



ロボット



WEBキャンペーン・WEBサービス



ゲーム



e-learning・教材・マニュアル作成
Copyright AI, Inc. All Rights Reserved.



機器への組み込み



パッケージソフトへの組み込み



ソフトOEM提供



メディア

【利用されている用途（A.I.VOICE）】

キャラクター利用＋動画ナレーション作成

個人利用



解説動画

TRPGリプレイ動画

歌ボ動画
(歌うVOICEROID)

料理・ゲーム・
旅行の実況動画

キャラの掛け合い
劇場動画



法人利用



地方創生・観光誘致
(町おこし)



デジタルコンテンツ
(スマホアプリ・ゲーム)



セールスプロモーション



キャラクター商品化

【導入・販売実績】

導入実績数



2100社

防災行政無線での
導入自治体数



834市区町村

オリジナル音声辞書
作成実績数



400名

法人向けパッケージソフト
累積販売数



1800ライセンス

コンシューマー向け
パッケージソフト累積販売数



12万ライセンス以上

1. 企業概要
2. 2023年3月期 決算概要・配当方針
3. ESGへの取り組み
4. 2024年3月期 主な取り組み・業績予想・配当予想

【エグゼクティブサマリー】

当社を取り巻く環境においては、

- ①防災分野において、前期に引き続き「緊急防災・減災事業債」における地方交付税措置が、当初令和2年度までとされていたことに伴い、**防災案件が2021年3月期までに集中したことによる反動**に加え、**半導体不足の影響によるメーカーの入札控え等**により防災案件の売上が第2四半期までは低調に推移したものの、第3四半期以降、半導体不足も解消傾向が見られ、売上も回復の兆しが見られました。
- ②コロナ禍に伴う企業のテレワーク、学校のオンライン授業におけるeラーニング教材・動画等のナレーション作成用途での「AITalk® 声の職人®」、「AITalk® 声プラス®」等の**パッケージ製品の需要については落ち着き**が見られ、期初計画を大幅に下回って推移したものの、年度末のキャンペーンにおいては堅調に推移し、パッケージ製品への底堅い需要が見られました。
- ③コンシューマー向け製品においては「A.I.VOICE®」シリーズの**新キャラクターのリリースが一部来期へ後ろ倒し**となったことから大型の新規キャラクターがリリースされた前事業年度と比較して低調に推移しました。

【業績ハイライト】

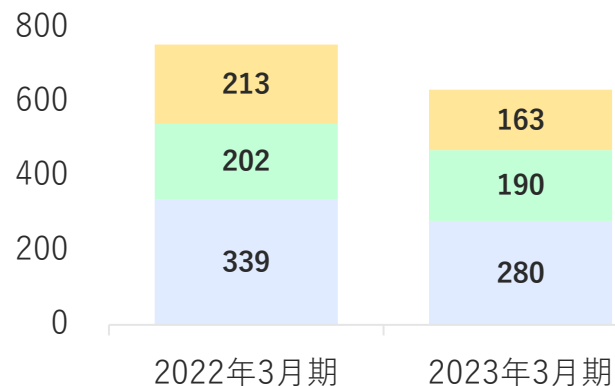
(百万円)

	2022年3月期	2023年3月期	前期比
売上高	756	633	△16.2%
営業利益	112	19	△82.3%
経常利益	109	22	△79.6%
当期純利益	83	16	△80.5%

【分類別売上】

(百万円)

(百万円)



	2022年3月期		2023年3月期		前期比
	売上高	構成比	売上高	構成比	増減率
法人向け製品	339	44.9%	280	44.2%	△17.4%
法人向けサービス	202	26.8%	190	30.0%	△5.9%
コンシューマー向け製品	213	28.3%	163	25.8%	△23.5%
合計	756		633		△16.2%

【損益計算書の概要】

売上高の減少に伴い

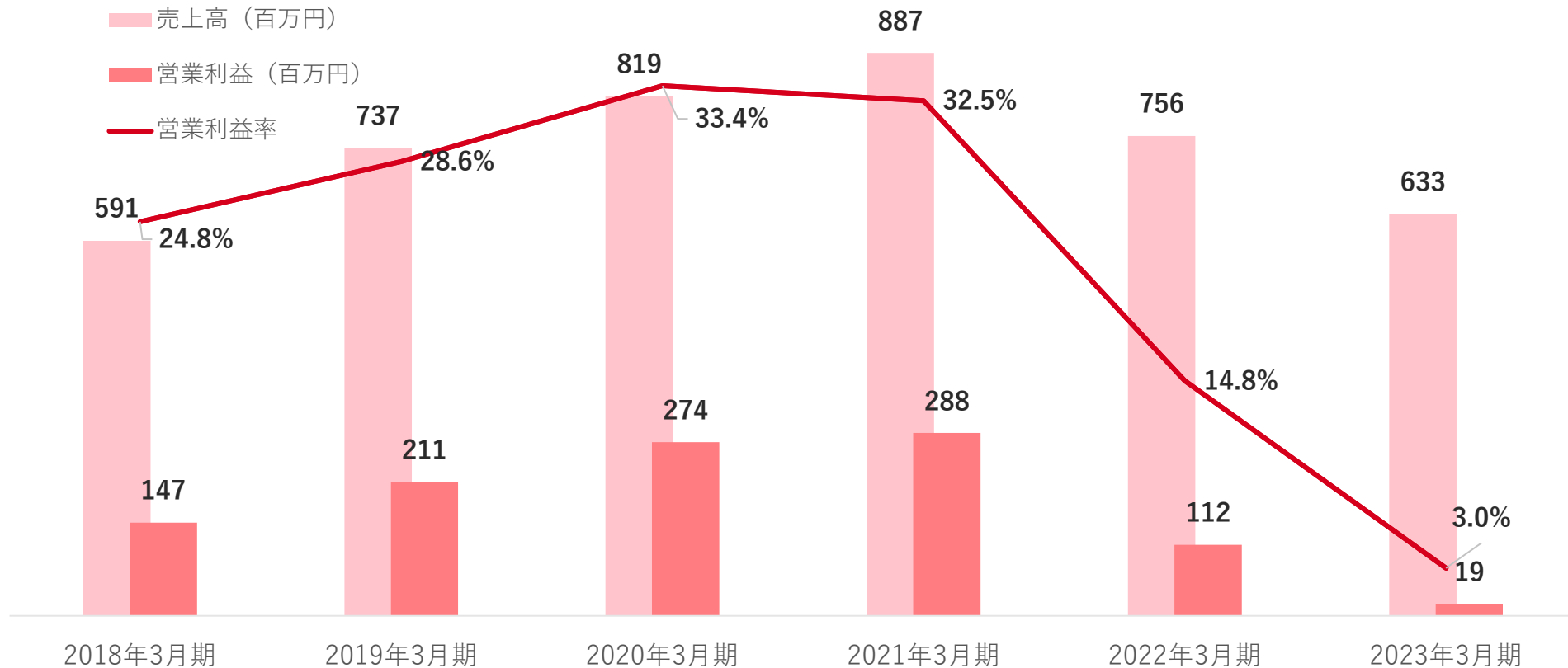
- ①営業利益、経常利益、当期純利益が減少。
- ②販売管理費の構成比が増加。

(百万円)

	2022年3月期		2023年3月期		前期比
	実績	構成比	実績	構成比	増減率
売上高	756	100.0%	633	100.0%	△16.2%
売上原価	152	20.1%	158	25.0%	4.1%
売上総利益	604	79.9%	475	75.0%	△21.3%
販売管理費	492	65.1%	455	71.9%	△7.4%
営業利益	112	14.8%	19	3.0%	△82.3%
経常利益	109	14.4%	22	3.5%	△79.6%
当期純利益	83	11.0%	16	2.5%	△80.5%

【売上高と営業利益の推移】

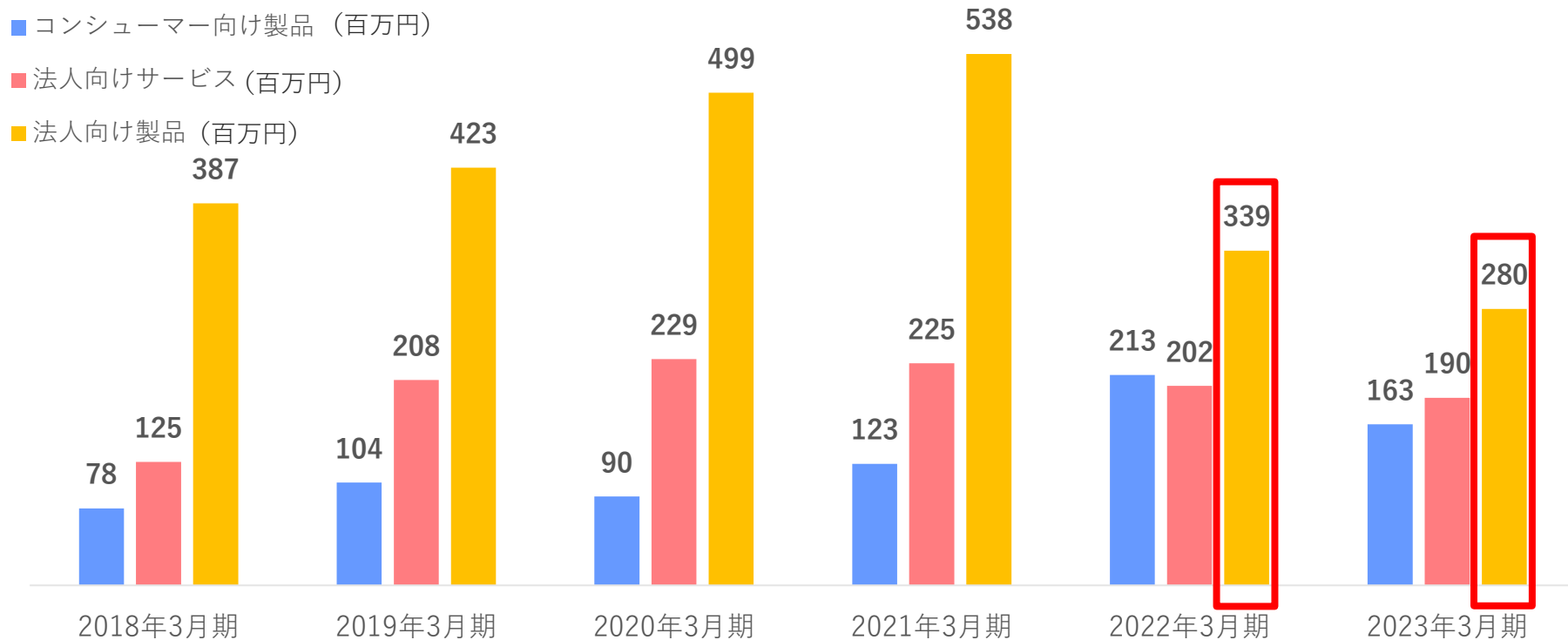
2022年3月期、2023年3月期と減収減益。



【分類別売上の推移】

2022年3月期、2023年3月期と法人向け製品の売上が減少。

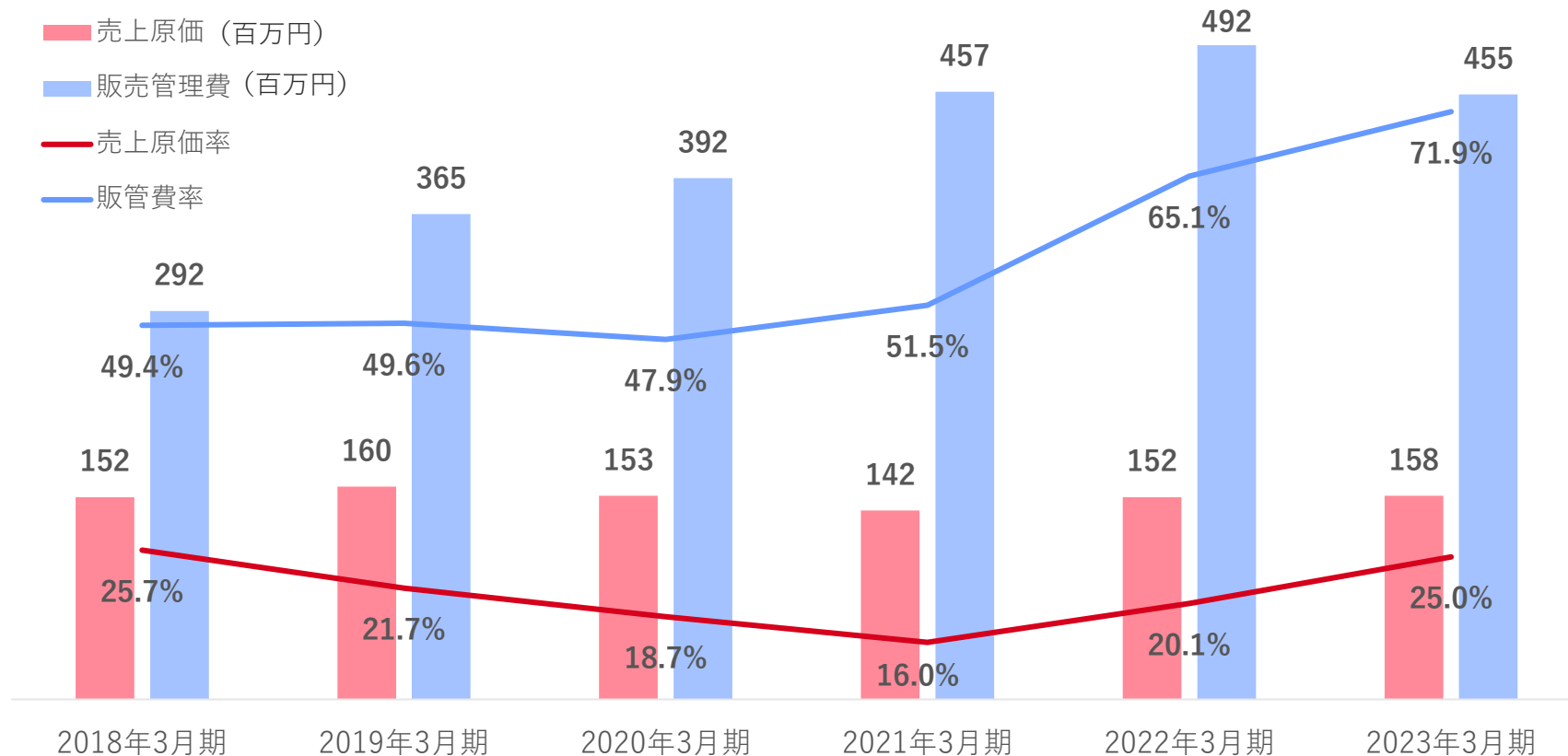
- ①東京オリンピックへ向けての取組みが2021年3月期でほぼ終了し、受託案件が減少。
- ②防災分野において、「緊急防災・減災事業債」の駆け込み需要の反動。2023年3月期については半導体不足が影響。
- ③コロナ禍におけるeラーニング教材、動画等のナレーション作成用途でのパッケージ製品の落ち着き。



【売上原価と販売管理費の推移】

①増員、販売促進費の増加等により、販売管理費が増加傾向。

②売上の減少に伴い、販管費率が増加傾向。



【貸借対照表の概要】

【資産合計】 売掛金が13百万円減少、固定資産が7百万円減少したものの、**現金及び預金が57百万円増加**したことにより、**資産合計が38百万円の増加**。

【負債合計】 **短期借入金が150百万円増加**、固定負債が1百万円減少したことにより、**負債合計は127百万円増加**。

【純資産合計】 **自己株式が87百万円増加**したことにより、**純資産合計は88百万円減少**。

(百万円)

	2022年 3月期	2023年 3月期	前期比 増減額
流動資産	1,313	1,359	46
固定資産	41	34	△7
有形固定資産	18	13	△5
無形固定資産	7	8	1
投資その他の資産	15	12	△3
資産合計	1,354	1,393	38

(百万円)

	2022年 3月期	2023年 3月期	前期比 増減額
流動負債	72	201	129
固定負債	2	1	△1
負債合計	75	202	127
純資産	1,279	1,191	△88
負債・純資産合計	1,354	1,393	38

	2022年 3月期	2023年 3月期	前期比
自己資本比率	94.4%	85.5%	△8.9pt
自己資本当期純利益率	6.7%	1.4%	△5.3pt
総資産経常利益率	8.1%	1.6%	△6.5pt

【配当方針】

当社の配当に関する基本方針は、株主の皆様に対する利益還元を重要な経営課題と認識しつつ、業績の推移、財務状況、事業計画に基づく資金需要等を総合的に勘案し、内部留保とのバランスをとりながら経営成績に合わせた利益配分を基本方針としております。

2023年3月期につきましては、非常に厳しい決算の状況を受け、誠に遺憾ながら無配と決定いたしました。

1. 企業概要
2. 2023年3月期 決算概要・配当方針
3. ESGへの取り組み
4. 2024年3月期 主な取り組み・業績予想・配当予想

【ESGへの取り組み】

S：社会	①女性活躍の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・社員53名中、女性が28名（52.8%） ・管理職14名中、女性が5名（35.7%）
	②子育て支援の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・育児休業制度の活用 6名（内、男性1名）
	③働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・フレックスタイム制度の導入 ・残業の少ない職場環境 月平均残業時間：5.63 時間（前期平均：7.39時間） ・休暇を取りやすい職場環境 平均有給消化率：87.6%（前期実績：81.1%） ・在宅勤務制度の導入 在宅勤務対象者：全社員の92.4%（前期実績：92.2%）
	④社会貢献活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行の企業訪問 2校（12名） ・職場体験学習の受け入れ 2校（12名）
G:ガバナンス	①株主・投資家との対話	<ul style="list-style-type: none"> ・機関投資家向け説明会の開催 2回 ・機関投資家との1on1ミーティング 8回

1. 企業概要
2. 2023年3月期 決算概要
3. ESGへの取り組み
4. 2024年3月期 主な取り組み・業績予想・配当予想

【マーケットの推移】

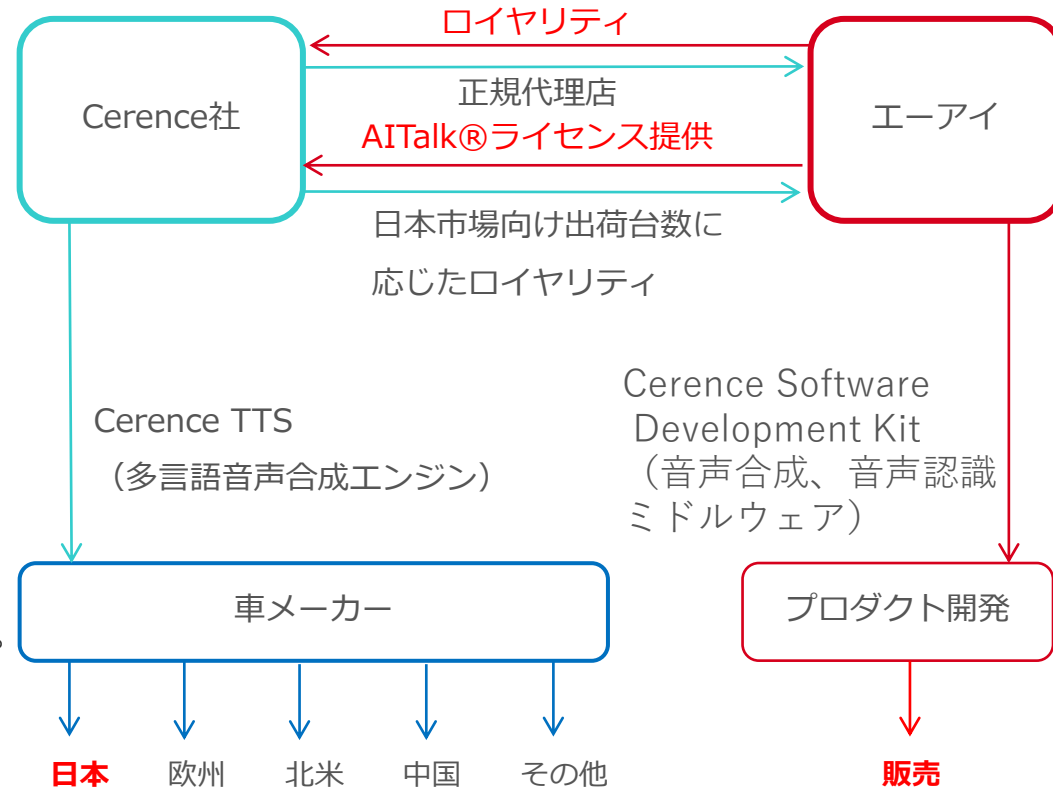
第1フェーズ (2003年～)	第2フェーズ (2011年～)	第3フェーズ (2015年頃～)	コロナ禍 (2020年～)	アフターコロナ・今後 (2023年～)
				新しいマーケットを開拓
				生成系AIとの連携
		インバウンド（多言語）		インバウンド（多言語）
			動画配信プラットフォーム	
		ナレーション作成	Eラーニング教材・動画での活用	
		車載分野		
	双方向の音声対話（スマートフォン・ロボット）			
			コンシューマー（動画作成）	
	コンシューマー			
	防災分野			
電話の自動応答				

【2024年3月期の主な取り組み】

① Cerence社との協業

- ・ 2019年11月12日公表
Cerence社とのライセンス契約を締結。
- ・ 2020年6月22日公表
「AITalk®」が組み込まれた「Cerence TTS」をCerence社より提供開始。
「Cerence TTS」の販売協力を加速。
- ・ **2023年4月13日公表**
Cerence社との代理店契約締結及びプロダクト開発着手。
40言語以上の外国語に対応したCerence社製「CSDK」を組み込んだプロダクトを開発し、多言語対応製品を拡充。

新ビジネススキーム



【2024年3月期の主な取り組み】

②ChatGPTとオルツ社の「LHTM-2」を活用したサービスの構築（2023年3月6日公表）

株式会社オルツ（本社：東京都港区、代表取締役：米倉 千貴、以下、オルツ）と共に「ChatGPT」にも搭載されているOpenAI社が開発した自然言語処理の人工知能モデルや、オルツの独自モデル「LHTM-2」で知られる大規模言語処理モデルの生成系AIを自社製品に活用することを目的に、法人が利用可能なAIサービスを構築開始。

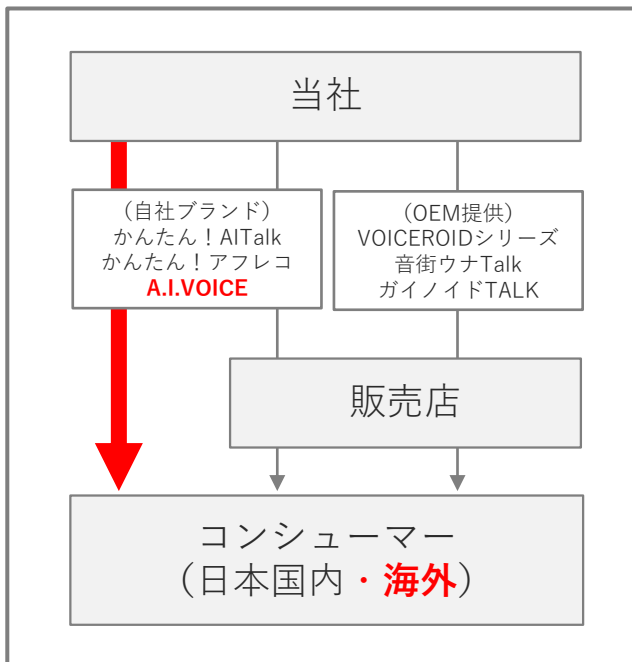


（オルツ社とは）

2014年11月に設立されたオルツは、P.A.I.®（パーソナル人工知能）、AIクローンをつくり出すことによって「人の非生産的労働からの解放を目指す」ベンチャー企業です。また、AIの対話エンジンの開発から生まれた音声認識テクノロジーを活用した「AI GIJIROKU」などのSaaSプロダクトを開発・提供しています。

【2024年3月期の主な取り組み】

③オリジナルブランド音声読み上げソフト「A.I.VOICE®」シリーズの拡大



自社ブランドの拡大、海外展開を進める。

【2023年発売開始予定】

- ・ 日本語音声合成パッケージ（発表済のキャラ）
「A.I.VOICE 紡乃世詞音」
「A.I.VOICE Junior 夜語トバリ」
「A.I.VOICE 百花繚乱（仮）」
- ・ A.I.VOICE 有名他社キャラコラボ計画（仮）

【海外展開】

- ・ 中国向けプロモーションの強化

【自社IP（琴葉茜・葵）の積極展開】

- ・ コラボイベント開催
- ・ コラボグッズ開催
- ・ A.I.VOICEサードパーティーキャラの展開
- ・ キャラクター法人ライセンス強化

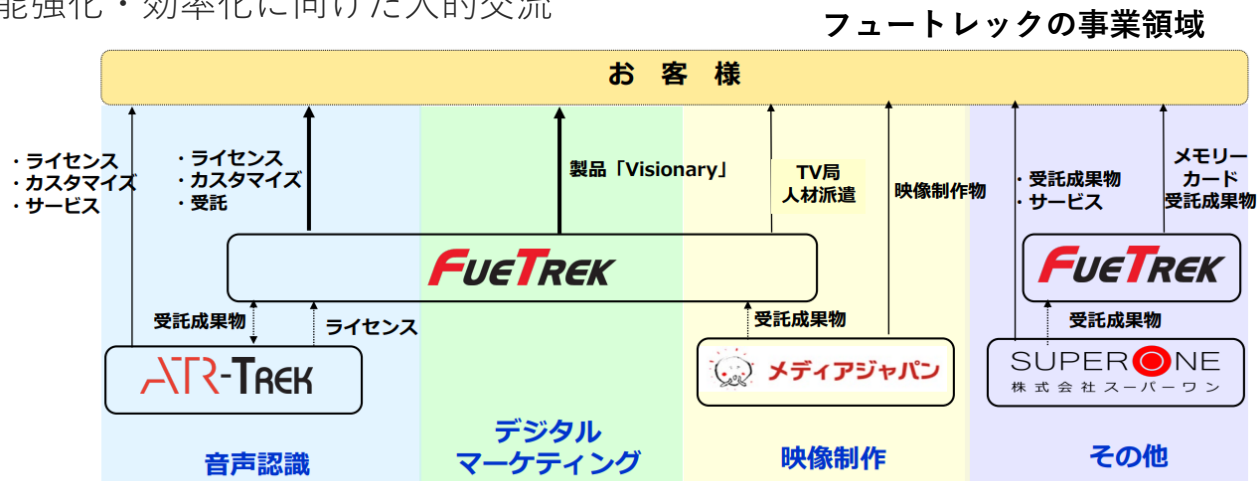


【2024年3月期の主な取り組み】

④フュートレックとの資本業務提携（2023年5月11日公表）

音声認識事業を中心とするフュートレック株式会社（東証スタンダード：証券コード2468）の株式約40.5%を取得するTOBを実施。成立後、資本業務提携契約に基づき、以下を推進。

- ・技術協力（双方の研究開発体制を最適化し、研究開発のスピードアップを図る。）
- ・音声合成、音声認識を活用した製品、サービスの共同開発
- ・営業協力（両社の顧客に対し両社が保有する音声関連商材のクロスセルを実施）
- ・管理機能強化・効率化に向けた人的交流



【2024年3月期 業績予想】

社会経済活動が回復し、インバウンドの再開等の期待感がある一方で、諸物価全般の上昇等コスト増加もあり、依然として厳しい状況が続くと想定される。以下を鑑みて、売上高は前年並みと見込む。

- ①インバウンド需要に対応したセレンス社製品「CSDK」プロダクト開発による多言語対応製品の拡充
- ②コンシューマー向け製品においては「A.I.VOICE®」の新キャラクターのリリース、グッズ等のIP事業の拡大
- ③次期製品開発に向けて研究開発投資を継続。

尚、フュートレック社との取り組み、「ChatGPT」関連の取り組みについては、未反映。

(百万円)

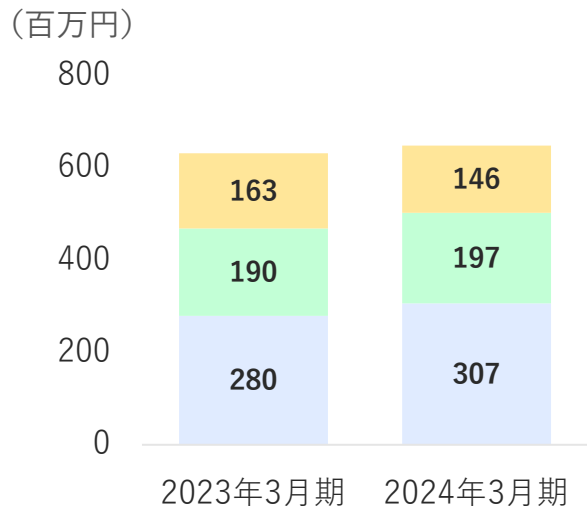
	2023年3月期		2024年3月期		増減額	
	第2四半期累計	通期	第2四半期累計	通期	第2四半期累計	通期
売上高	293	633	297	650	4	17
営業利益	△24	19	△22	22	2	3
経常利益	△23	22	△23	19	0	△3
純利益	△16	16	△16	13	0	△3

【2024年3月期 分類別業績予想】

【法人向け製品】 前期後半より回復基調の防災案件の増加を見込み、前期比ではやや売上増を見込む。

【法人向けサービス】 前期並みを見込む。

【コンシューマー向け製品】 製品サイクルがひと段落したことにより、次期製品に向けて研究開発投資を継続する。
また、キャラクターのIP展開拡大を目指す一方で、新製品のリリースが予定されていないVOICEROID®シリーズの売上減を見込み、前期比では10%程度の売上減を見込む。



(百万円)

	2023年3月期		2024年3月期		前期増減率
	売上高	構成比	売上高	構成比	
法人向け製品	280	44.2%	307	47.2%	+9.6%
法人向けサービス	190	30.0%	197	30.3%	+3.7%
コンシューマー向け製品	163	25.8%	146	22.5%	△10.4%
合計	633		650		+2.5%

【配当予想】

当社の配当に関する基本方針は、株主の皆様に対する利益還元を重要な経営課題と認識しつつ、業績の推移、財務状況、事業計画に基づく資金需要等を総合的に勘案し、内部留保とのバランスをとりながら経営成績に合わせた利益配分を基本方針としております。具体的には、配当性向20%程度を目処に、配当水準の向上に努めてまいります。

2024年3月期につきましても、厳しい決算の状況を見込んでいることから、誠に遺憾ながら無配を予定しております。

【事業計画及び成長可能性に関する事項について】

毎年5月を目途に開示を行う予定でしたが、本年については、6月中旬を目途にアップデートを行う予定でございます。

【将来見通しに関する注意事項】

本資料は、会社内容をご理解いただくための資料であり、投資勧誘を目的とするものではありません。

本資料に記載されている業績予想及び将来予測につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき当社で判断したものであります。予想にはさまざまな不確定要素が内在しており、実際の業績はこれらの将来見通しと異なる場合があります。